

年月日：1964年2月26日

用務：日本の人口の動向と将来人口に関する事情聴取ならびに意見交換

日本人口学会記要の刊行

『日本人口学会記要』は、昭和27年8月に第1号が刊行され、つづいて第2号は昭和29年3月に、第3号は昭和30年3月に刊行されたが、その後予算の関係上、続刊が遅延していた。しかし、今回ようやく第4号の和文版が去る昭和38年1月に刊行されたのについて、同号英文版が昭和39年1月をもって刊行されるに至った。今回第4号の発行が可能となったのは、和文版についてはその印刷発行の経費として財団法人矢野恒太記念会からの寄付金によるものであり、英文版については、その翻訳、印刷発行の経費として米国ニューヨークの The Population Council, Inc. から受けた寄付金に負うものである。この記要第4号の編集は、本研究所資料課山口喜一技官が中心となって担当した。

第4号の論文（和文版）目次は次のとおりである。

論文題名	執筆者
日本人男子の簡速労働力生命表：昭和5年・昭和25年・昭和30年	河野 稠 果
大人口集団における家族計画プログラム——日本国有鉄道の場合——	古屋 芳 雄
わが国戦後における出生力変動の一分析	黒田 俊 夫
1955年府県別人口の再生産率と自然増加率——最近日本の人口学上の一問題——	水島 治 夫
人口統計における年齢の誤り	森田 優 三
家族計画未指導地域における受胎調節、人工妊娠中絶、不妊手術の連関普及状況	篠崎 信 男
大都市地域における人口の圏構造	
——東京都を中心とする大都市地域における1950年、1955年および1960年面積、	
人口、人口密度および1950年～1960年人口増加率——	館 英 彦 濱 英 彦
後進経済の発展と人口要因	寺 尾 琢 磨
国内移動と移動人口の年齢構造に関する研究	上 田 正 夫
動物個体群の人口論的研究	古 原 友 吉

第5回日本老年社会科学会総会の開催

昭和38年11月4日～5日、京都市において第3回日本老年学会総会、第5回日本老年医学会総会ならびに第5回日本老年社会科学会総会が開催された。人口問題関係の報告としては、日本老年学会総会のシンポジウムの「環境と老人」において、本研究所上田正夫部長による「大都市の人口の老齢化」の報告があった。従来、人口問題関係の報告がなされる老年社会科学会総会では、今回は、とくに直接人口問題に関するものはなかったが、そのプログラムの全体を掲げると次のごとくである。

第1日（11月4日）

○一般演題

- 1 老人の自殺……………大谷大学 中 久 郎
- 2 老人法学……………京都大学 西 原 富 雄

3	住宅開発と老人のすまい	大阪市立大学	栗原嘉一郎 多胡進 溝神広至郎
4	要介護老人の実態	大阪養老院	
5	有料老人ホームの入寮希望理由	浩風園	岩田克夫
6	老人の健康状態について	厚生省	芦沢威夫
7	北欧における社会保障の哲学と経済性の原則	厚生省	村井隆重
8	北海道に於ける長寿村を訪ねて	北方老人病研究会	森幹郎
9	カナダにおける日系第一世の老年問題	同朋大学	高橋皓 高橋仁 木村るみ子
10	老人クラブについて	日本社会事業大学	
11	石油化学コンビナートの都市における老人問題(第2報告) ——四日市市における老人の生態について——	四日市市老人福祉問題研究会	大間知千代 木田徹郎
			上井久雄 松井銀伍 吉田正吉

第2日(11月5日)

○一般演題

12	老年期の心理学的研究	慶応義塾大学 横浜市保健診療所 千葉大学	荒井保男 堀井徹 青木孝悦
13	精神病院の慢性老人病棟における社会復帰への努力	東京都立梅ヶ丘病院	岸信子
14	東京都(区部)における老人の生活とその意識について ——主として老人クラブの老人を対象として——		
(1)	老人の生活	東洋大学	山下製姿男
(2)	老人の生活状況	〃	林千代
(3)	老人の意識	〃	福田吉子
(4)	総括	〃	塚本哲

○特別講演

1	老人世代論	中央大学	那須宗一
2	大婦中心家族と老人	東京都立大学	小山隆

○特別報告

1	国際老年学会	寿命学研究会	渡辺定勝
2	世界老人会議	相愛女子大学	橋覚勝

○シンポジウム

1	老人福祉法をめぐる諸問題	司会 大阪市立大学	池川清
(1)	老人の健康管理	京都大学	宮田尚之
(2)	家庭奉仕員	大阪市社会福祉協会	矢内正一
(3)	老人福祉法の居住施設について	大阪市立大学	岡村重夫
(4)	老人のレクリエーションと教育	楽生学園	小林文成
2	老年と信仰	司会 京都大学	佐藤幸治
(1)	葡萄作農村における老人と信仰	東京教育大学	森岡清美
(2)	実態調査による老若の宗教的態度の比較	大谷大学	白井二尚
(3)	辞世に現われた老人の人生観	相愛女子大学	橋覚勝